古事記めぐり旅 Vol.2

身近な場所にある古事記ゆかりの地をめぐってみませんか？

多神社（通称）

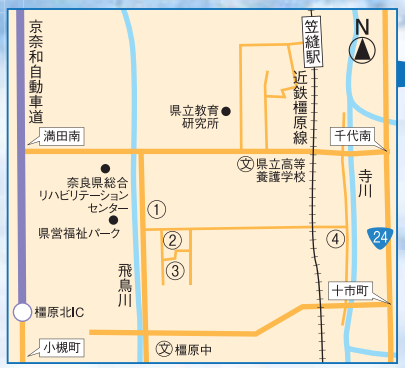
太安萬侭を祀る大和屈指の大社

古事記が書かれたのは、今から約1300年前。編纂したのは朝廷の文官、太安萬侭です。語学の才に長けた安萬侭は、記憶の天才・稗田阿礼が暗誦した各地に伝わる伝承神話などを、日本語の響きを伝える画期的な漢文体で表記。古事記編纂の大事業とともに、日本語の確立に貢献する偉業をも成し遂げたと言われています。

才人・安萬侭を祀るのは、古くは広大な境内を有した大和屈指の大社、多神社（正式名称：多坐彌志理都比古神社）です。主祭神は安萬侭の一族で古代豪族・多氏の祖につながる神八井耳命。社は奈良盆地のほぼ真ん中に建ち、三輪山と多神社、二上山は、東西一直線でつながります。春分・秋分には三輪山の山頂からの日の出、二上山に沈む夕陽が拝めるなど特別な方位に位置。古代からの太陽信仰聖地説もあり、天照大御神が伊勢神宮に鎮まるまで祀られた「元伊勢」以前の笠縫邑伝承地の一つとされています。

1979年、奈良市比瀬町の茶畑から、安萬侭の墓が発見されました。中でも被葬者を定かに示す墓誌の出土は考古学史上の大発見であり、古事記をめぐる古代ロマンのニュースに日本中が沸きました。

多神社境内をとりまく一帯は、弥生時代からの集落遺跡で古代の祭祀場とされるところ。多くの伝承の中心に社が鎮座しています。



①多神社
②小杜神社
③太安萬侭石碑
④多神社一の鳥居

「多坐彌志理都比古神社」
問 田原本町多570 ☎0744-33-2155
※資料館の拝観は5名以上で要電話予約。

「小杜神社」
太安萬侭が祀られる境内横の摂社、小杜神社。多神社本殿は4棟の春日造で神武天皇とその母君、皇子の神八井耳命、神沼河耳命（かむぬなかわみみのみこと）を祀る。

「太安萬侭石碑」
古事記編纂1300年を記念して2012年、安萬侭の命日7月6日に建立。御神像など太安萬侭関連資料は多神社境内の資料館に所蔵されている。

大古事記展
五感で味わう、愛と創造の物語

太安萬侭神坐像（多坐彌志理都比古神社蔵）

大古事記展では、最初に太安萬侭や神々の彫刻が皆さんを『古事記』の物語の世界にいざないます。
太安萬侭神坐像は冠をかぶり、手に笏を握り、沓の裏を合わせて畳に座るお姿で、室町時代前期の作と考えられています。

※特別展「大古事記展」（主催：奈良県、朝日新聞社）は、県立美術館で10月18日（土）より開催します。
問 県ならの魅力創造課
☎0742-27-8975 FAX 0742-27-7744
なら紀紀・万葉